

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	論理国語	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	精選 論理国語(三省堂)		副教材等	新国語便覧(第一学習社)、 図でつかむリード現代文2(啓隆社) 核心漢字(尚文出版) 新入試評論文読解のキーワード300(明治書院)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	【論理】 情報の「メタ」化 (外山滋比古)	情報の「メタ」化を理解し、思考を整理する方法を考える。	○			論証したり、学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	
					○	進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。	
5 6	【情報】 ぬくみ(鷺田清一) 問題演習	都市生活における自己と他者の関係について考える これまでに身につけた語彙力や読解力をはかる。	○			論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	
					○	進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げ、論述したり討論したりしようとしている。	
7	【環境】 人類による環境への影響 (鷲谷いづみ)	人類史から環境問題を考える。	○			文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	
					○	進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、文章の内容や構成を的確に捉え、調べた成果を発	

						表しようとしている。	
8 9	【生命】 病と科学(柳澤桂子)	「痛み」に着目して医療や科学の 限界について考える	○			論証したり学術的な学習の基礎を学んだり するために必要な語句の量を増し、文章 の中で使うことを通して、語感を磨き語彙 を豊かにしている。	
				○		情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、 自分の立場や論点を明確にして、主張を 支える適切な根拠をそろえている。	
					○	進んで論証したり学術的な学習の基礎を 学んだりするために必要な語句の量を増し、 学習の見直しをもって、情報の妥当性 や信頼性を吟味しながら主張を支える適 切な根拠をそろえ、調べたことを整理して 論述しようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	【芸術】 ミロのヴィーナス(清岡卓行) 問題演習	ミロのヴィーナスの「魅力」について 考える これまでに身につけた語彙力や 読解力をはかる。	○			主張とその前提や反証など情報と情報との 関係について理解を深めている。 多面的・多角的な視点から自分の考えを 見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたり して、主張を明確にしている。 進んで主張とその前提や反証など情報と 情報との関係について理解を深め、学習 の見直しをもって、多面的・多角的な視点 から自分の考えを見直し、考察した内容を まとめようとしている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
11 12	【科学】 「なぜ」に答えられない科学 (池内了) 問題演習	科学の知とはどのようなものかを 理解する これまでに身につけた語彙力や 読解力をはかる。	○			文章の種類を踏まえて、資料との関係を 把握し、内容や構成を的確に捉えている。 進んで論証したり学術的な学習の基礎を 学んだりするために必要な語句の量を 増し、学習課題に沿って、資料との関係 を把握して内容や構成を的確に捉え、 自分の考えを論述しようとしている。	
1 2 3	【科学】 AI時代の「人間」 (堀内進之介) 問題演習	AIとの対比から「人間」について の理解を深める これまでに身につけた語彙力や 読解力をはかる。	○			文や文章の効果的な組み立て方や 接続の仕方について理解をして いる。 主張を支える根拠や結論を導く論 拠を批判的に検討し、文章や資料 の妥当性や信頼性を吟味して内容 を捉えている。 進んで文や文章の効果的な組み立 て方や接続の仕方について理解 を深め、様々な資料を調べて発表 したり話し合ったりしようとして いる。	定期考査 課題 小テスト 授業態度

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	古典探究	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	古典探究(数研出版)		副教材等	新国語便覧(第一学習社) 読解トレーニング 古典の演習2 古文単語315(桐原書店) 精選古典文法(三省堂) やさしくわい古典文法ノート(尚文出版) 漢文必携(桐原書店) 漢文必携チェックノート(桐原書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	【古】説話 十訓抄	著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。	○			古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	和歌を含んだ説話の特質について理解を深めようとしている。	
5	【漢】故事 画竜点睛 【古】歌物語 伊勢物語「初冠」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	○			古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	
				○		必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈している。	
					○	故事成語の由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。 作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。	
6	【漢】漢詩 鹿柴(絶句) 黄鶴楼(律詩)	漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げる。	○			言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	
				○		文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	漢詩の表現や技法への理解を深めるとともに、作品にこめられた作者の思いを進んで読み取ろうとしている。	
7	問題演習	これまでに身につけた単語や文法などの基礎力の定着や読解力をはかる。	○			古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	

	【古】日記 更級日記 「東路の道の果て」	晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れる。			○	内容を的確に捉えるために、文語の決まりを理解し、積極的に説明しようとしている。	
8 9	【漢】史伝 鴻門之会(史記) 「剣舞」 「頭髮上指す」	登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。	○			古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	
					○	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	
					○	各場面の展開を整理し、登場人物の言動をもとに、心情や性格を進んで捉えようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	【古】物語 源氏物語 「小柴垣のもと」 問題演習	歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 これまでに身につけた単語や文法などの基礎力の定着や読解力をはかる。	○			古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 人物造形・心理描写・和歌の役割などに注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
11	【漢】史伝 四面楚歌(史記)	登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。	○			古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 各場面の展開を整理し、登場人物の言動をもとに、心情や性格を進んで捉えようとしている。	
12	問題演習	これまでに身につけた単語や文法などの基礎力の定着や読解力をはかる	○			古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 内容を的確に捉えるために、文語の決まりを理解し、積極的に説明しようとしている。	
1	【古】歴史物語 大鏡「南院の競射」	歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	○			古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
2	【漢】思想 道徳斉礼(孔子) 性善(孟子) 性悪(荀子) 無為之治(老子) 曳尾於塗中(莊子) 侵官之害(韓非子)	思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。	○			古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 文章に表れているものの見方を踏まえて、自分の考えを広げたり深めたりしている。 諸子百家の思想を学び、それぞれの主張の関係を捉えようとしている。	
3	問題演習	これまでに身につけた単語や文法などの基礎力の定着や読解力をはかる。	○			古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 各場面の展開を整理し、登場人物の言動をもとに、心情や性格を進んで捉えようとしている。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	地理探究	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(文系・理系)
使用教科書	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)		副教材等	2025 新地理要点ノート(啓隆社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	地理探究の目標について、学習指導要領では次のように規定しています。社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする学習過程を前提に、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解している。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力を身に付けている。	日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることから、グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代における重要な資質・能力を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準, 評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	1 節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形	地球表面の、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形について、それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかを理解する。	○			地形に関する知識と世界の地形分布の特徴、地形図の等高線や地図記号を判読し、地形や土地利用を捉えることができる。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		地形をプレートテクトニクスと関連づけ、地形と比較して考察できる。	
					○	地図の読み取りや作業に意欲的に取り組み地形と生活の関連を捉えようとしている。	
5	2 節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などの気候要素の地域による違いについて要因を考察し、人々の生活にどのように影響しているかを理解する。	○			大気の大循環と海洋、各気候の特徴を理解し、資料から各気候と植生の関連、人々の生活を読み取り、整理できる。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		気候と人間生活との関連を資料から考察し、各気候による景観の違いを捉え生活への影響を考察できる。	
					○	資料の判読から世界各地の気候や生活文化を意欲的に探究し、気候資料の作成に意欲的に取り組もうとしている。	
6	3 節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み 4 節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	日本の自然環境の特徴があり、その特徴と自然災害の関係を理解する。 地球上のさまざまな環境問題を理解し、その解決と持続可能な社会の創出のために、どのような考え方やどのような取り組みを行うべきかを考える。	○			日本列島の地形や気候など多様な自然環境の特徴と自然災害との関係について理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		自然災害と各地形の関係について、多面的・多角的に考察し、表現できる。	
					○	日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
7	1 節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	農林水産業が、自然条件や社会条件により分布や発達にどのような傾向や規則性があるかを理解する。	○			農林水産業の空間的な規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みについて理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		場所の特徴や結びつきから主題を設定し、それらの空間的な規則性、傾向性や地球的課題の要因や動向を多面的・多角的に考察し表現している。	
					○	農林水産業について、よりよい社会の実現を視野に関連する課題を主体的に追究しようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 ・ 9	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配と、世界全体での偏りや飽食や飢餓について、地域を理解その原因について理解する。	○			食料の分配の世界的な偏り、飽食や飢餓のある地域と原因について理解する。	
				○		食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
10	3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布に大きな偏りがあることを理解する。 エネルギー・鉱産資源が、どのようにして生活や産業に利用されているか、また、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかを理解する。	○			エネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、資源の生活や産業との関連、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		エネルギー・鉱産資源の生産や消費の不均衡をなくすために行われていることを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
11	4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方であった。今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。	○			今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためにどのような考え方が必要かについて理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		持続可能な社会の実現のため、どのような考え方が必要かを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	資源・エネルギー問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
12	5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業の生活や産業の発達との関係と。世界工業がどのように発展し、現在はどうなような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのかを理解する。	○			工業はどのように発展し、現在はどうなような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		現在、どのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
1	6節 第3次産業 1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業第	経済が発展と、物やサービスへの需要の関係と、第3次産業の現状について理解する。	○			経済が発展し、物やサービスへの需要が高まり、主力の産業となった第3次産業の現状について理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		主力産業となった第3次産業の現状について、多面的・多角的に考察し表現している。	
					○	第3次産業について、よりよい社会の実現のための課題を主体的に追究しようとしている。	
2	1節 交通・通信 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達	交通と通信の発達の社会や経済への影響と、発達の傾向や地域性、地域間格差について理解する。	○			交通網や通信網の発達には、どのような傾向や地域性、地域間格差が現れているかを理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	交通・通信について、よりよい社会の実現を視野に、関連する課題を主体的に追究しようとしている。	
3	2節 観光 1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化	観光の特徴や利点、現状と今後の課題について理解する。	○			訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		観光産業を活性化させる取り組みや、観光の特徴や利点、課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	公共	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース
使用教科書	新版 公共(数研出版)		副教材等	最新図説公共(浜島書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	現代の諸課題について、様々な資料を基に理解を深め、事実を基に多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論を重ねたりして、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めることを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、構想したことを議論する力を身に付けている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を持ち、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚している。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	青年期の課題や先哲の思想・生き方を知り、公共的な空間を作っていく主体としての自覚を得る。	○			青年期の課題や先哲の思想、宗教について理解する。 自己形成の課題について考察できる。 先哲の思想や生き方、青年期の課題から自分自身の生き方を、主体的に追究しようとする。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	先哲の思想や生き方を学び、公共的な空間を作る主体としての自己を考察する。 現代の諸課題について考察する。	○			近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容を理解する。 公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できる。 選択・判断の手掛かりとなる考え方をを使って、現代の諸課題を主体的に追究しようとする。	
7 8	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理を理解し、日本国憲法で保障されている権利を学びそのあり方について考察する。	○			法などの社会規範の役割や日本国憲法で保障されている権利が理解でき、日常生活と関連づけて考察できる。 日本国憲法で保障されている権利の保障と他者の権利や公共の利益との調和について考察できる。 日本国憲法の基本原理に基づいた社会のあり方について、自分なりに構想できる。	
9	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	国内の政治の仕組み、地方自治、選挙制度などについて理解し、よりよい民主政治のあり方について考察する。	○			選挙のしくみや政党の役割、地方自治の現状と課題を理解する。 日本の政治について課題を発見し、解決する見通しを持つことができる。 模擬裁判・投票などの取組を通して、政治に関心を持ち、社会に積極的に参画する自覚を持つことができる。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
10	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	現代の企業の役割や経済活動の仕組み、政府が経済に果たす役割などを理解するとともに、国際経済の仕組みにも目を向け、課題を理解し考察する。	○			市場経済のメカニズムや財政・金融のはたらきを理解する。 需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察できる。 日本経済の課題や、市場機構を修正している具体例を指摘でき自らの生活と結び付けて経済と接することができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
11 12	第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	日本経済の発展の過程と特徴、消費者問題や労働問題などの社会問題について理解し、その解決方法について考察する。	○			日本経済のあゆみやさまざまな社会問題について理解する。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できる。	
					○	経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。	
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割	国際社会のしくみと戦後の国際情勢について理解し、これからの国際関係のあり方について考察する。 国際政治の課題について、理解し、その中で日本の果たすべき役割について考察する。	○			国際法の意義や国際連合の組織と役割を理解する。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できる。	
					○	国際社会で平和と安全を維持するため何が有効なのか、自ら意見が持て他者と意見の交流ができる。	
2	第3節 国際経済の動向と国際協力	国際経済の仕組みや課題について理解し、その解決方法について考察する。	○			貿易や外国為替相場について、そのしくみを理解する。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		円高などの為替相場の変動が経済にどのような影響を与えるのか考察できる。	
					○	国際社会の課題について主体的に追究できる。	
3	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	現代社会の諸課題について、探究するための資料を収集・選択し、討論や発表などを通して深く考察する。	○			現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などを理解する。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができる。	
					○	現代社会の特質から生じる価値の対立について、討論やディベートなどさまざまな方法を活用して主体的に探究できる。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	数学Ⅱ	単位数	3単位 (1・2学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	新編 数学Ⅱ(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅱ(数研出版) クリアー数学Ⅱ(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第3章 図形と方程式第3節 軌跡と領域	・図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。	
					○	・点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。	
4	第4章 三角関数第1節 三角関数	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	○			・弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。	
				○		・一般角を動径とともに考察することができる。弧の長さで角を図る方法として、弧度法を考察することができる。	
					○	・三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。	
5	第2節 加法定理	・加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			・加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。	
				○		・2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。	
					○	・加法定理を利用して、座標平面上の点の回転を考察することに関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
6	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	・指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			・指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・指数関数 $y = a^x$ のグラフが定点(0, 1)を通ることを理解している。	
					○	・累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。	
7	第2節 対数関数	・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			・対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。	
				○		・対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。	
					○	・やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。	
11	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	・微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○			・平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。	
				○		・導関数を表す種々の記号を理解して、それらを適切に使うことができる。	
					○	・曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。	
11	第2節 関数の値の変化	・導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。	○			・導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。	
					○	・方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	
11	第3節 積分法	・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○			・不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。	
				○		・面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかくて考察している。	
					○	・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	数学Ⅲ	単位数	1単位 (2・3学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	新編 数学Ⅲ(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅲ(数研出版) クリアー数学Ⅲ(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
12	第2章 極限 第1節 数列の極限	・数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。 無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できるようにする。	○			・数列の極限について、不定形を解消するように式変形して収束、発散を調べることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・漸化式で定められる数列について、一般項を求めることで、極限を求めることができる。	
				○	・数列の極限を求めるために、様々な方法で不定形を解消しようとする。		
1	第2節 関数の極限	・数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。	○			・ $x \rightarrow a, x \rightarrow \infty$ のときの関数の極限および収束する場合を理解し、その極限を求めることができる。	
				○		・不定形を解消するように工夫して式変形し、 $x \rightarrow \pm\infty$ のときの関数の極限を求めることができる。	
				○	・関数の右側極限、左側極限の考え方に興味・関心をもつ。		
2	第3章 微分法 第1章 導関数	・微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。	○			・定義にしたがって導関数を求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・これまで学んだ公式を用いて、新たな公式を証明することができる。	
				○	・連続であっても微分可能でない関数が存在することに興味をもつ。		
3	第2節 いろいろな関数の導関数	・導関数の定義や公式を適用して、いろいろな関数の導関数を導き、それを用いて関数が微分できるようにする。	○			・高次導関数の定義や表記を理解し、種々の関数の高次導関数を求めることができる。	
				○		・一般の第 n 次導関数を求めることができる。	
				○	・第 n 次導関数の式の形を予想しようとする。		

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	数学B	単位数	1単位 (2・3学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	新編 数学B(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学B(数研出版) クリアー数学B(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	・数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を培う。	○			・等差数列の公差、一般項、等比数列の公比、一般項などを理解している。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・等差数列、等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。	
					○	・数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする。	
8	第2節 いろいろな数列	・和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	○			・和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。	
				○		・初項から第 n 項までの和に着目して、一般項を考察できる。	
					○	・数列の規則性を、隣り合う 2 項の差を用いて発見しようとする。	
9	第3節 漸化式と数学的帰納法	・数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	○			・初項と漸化式から数列の一般項が求められる。	
				○		・複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。	
					○	・おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	数学C	単位数	1単位 (1・2学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	新編 数学C(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学C(数研出版) クリアー数学C(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	・向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	○			・平面上のベクトルが 2 つのベクトルの線形和で 1 通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを 2 つのベクトルで表すことができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。	
					○	・ベクトルの内積の計算をする際、1 つ 1 つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。	
10	5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	・位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	○			・ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。	
				○		・位置ベクトルの一意性を活用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。	
					○	・様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	
10	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用	・平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。	○			・平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは、空間においても同様に成り立つことを理解している。	
				○		・空間ベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。	
					○	・様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	物理基礎	単位数	2単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	高等学校 物理基礎(第一学習社)		副教材等	セミナー物理基礎+物理(第一学習社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付け、それを表現できる。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	序章 物理量の測定と扱い方	<ul style="list-style-type: none"> 物理量、数値、数式のそれぞれの表し方を理解する。 誤差と有効数字を理解し、測定値の計算に取り組んでいる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 有効数字の意味を理解し、測定値の計算ができる。 誤差が生じる原因を理解し、有効数字の桁数から考察して表現することができる。 物理の基礎となる物理量の表し方や誤差と有効数字について、意欲的に学習しようとする。 	定期考査 授業態度 課題 レポート
	第1章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 ③落下運動 探究3 重力加速度の測定	<ul style="list-style-type: none"> 物体の変位や速度、合成速度や相対速度などの表し方について理解する。 物体の加速度を理解し、等加速度直線運動について式やグラフを用いて考えることができる。 自由落下や鉛直投射について、式やグラフを用いて考えることができる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 等加速度直線運動の特徴を踏まえ、関係式を導くことができる。 落下運動の特徴を理解し、式やグラフを用いて表現できる。 重力加速度の測定など、積極的に実験に取り組んでいる。 	
5	第2節 力と運動の法則 ①さまざまな力 ②力の合成・分解とつりあい ③運動の3法則 ④運動方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> 物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い、つりあいについて理解する。 運動の3法則について理解する。 運動方程式の立て方について学習し、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> さまざまな運動状態における物体について、力のつりあいの式や運動方程式を立てることができる。 運動方程式を用いて、物体がどのような運動をするかを考察し、表現できる。 	
6	⑤摩擦力を受ける運動 ⑥液体や気体から受ける力	<ul style="list-style-type: none"> 摩擦力や浮力など、さまざまな力を含めた物体の運動について、物理学的に考察し、意欲的に取り組んでいる。 			○		
	第3節 仕事と力学的エネルギー ①仕事と仕事率 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギー 探究4 動摩擦力がする仕事と動摩擦係数	<ul style="list-style-type: none"> 仕事、仕事の原理、仕事率について理解する。 運動エネルギーと仕事の関係について、式を用いて理解する。 力学的エネルギーの保存について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 力学的エネルギー保存の法則を導くことができ、式を立てることができる。 運動エネルギーを仕事と関連づけて理解し、両者の関係を説明できる。 中学校の学習内容を振り返り、運動エネルギー、位置エネルギーについて意欲的に考えようとする。 	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー ①熱と温度 探究5 比熱の測定 ②エネルギーの変換と保存	・熱運動、セルシウス温度、絶対温度について理解する。 ・熱平衡、比熱、熱容量、熱量の保存、潜熱について理解する。 ・熱と仕事が同等であることを学習し、内部エネルギー、熱力学の第1法則、熱力学の第2法則を理解する。	○			・熱容量と比熱の関係を学習し、熱量の保存についての式を立てることができる。	定期考査 授業態度 課題 レポート
				○		・熱機関の基本的なしくみを理解し、その特徴を説明できる。	
					○	・熱量の保存を利用した比熱の測定実験において、精度の高い結果を得るために自ら考え、意欲的に取り組んでいる。	
8	第III章 波動 第1節 波の性質 ①波の表し方と波の要素 ②波の重ねあわせと反射	・正弦波と波、振幅、波長、周期、振動数、媒質の振動など、波の要素について理解する。 ・ $y-x$ グラフ、 $y-t$ グラフのそれぞれの特徴について理解する。 ・反射の仕方、反射波と合成波の作図の仕方を理解する。	○			・単振動と等速円運動の関係を学習し、波の速さや振動数、波長など、基本的な波に関する物理量について理解する。	
				○		・ $y-x$ グラフ、 $y-t$ グラフの違いを理解し、一方のグラフからもう一方のグラフを描き、説明できる。	
					○	・自由端、固定端での反射の仕方を、観察などを通して物理学的に説明しようとする。	
9	第2節 音波 ①音波の性質 ②物体の振動 探究7 気柱の共鳴	・音波の伝わり方を学習し、空気中における音速と温度の関係を理解する。 ・音の3要素について理解する。 ・弦に生じる振動、気柱に生じる振動の特徴を学習し、波の波長、振動数の関係を式を用いて理解する。	○			・弦に生じる定常波、気柱が振動するときの定常波の波長や振動数を式で計算することができる。	
				○		・閉管と開管の違いを理解し、固有振動で生じる波長と振動数の関係を式で導き、表現できる。	
					○	・気柱共鳴装置を用いた探究など、積極的に実験活動に取り組んでいる。	
10	第IV章 電気 第1節 静電気と電流 ①静電気 ②電流と抵抗 ③電気エネルギー 探究8 ジュール熱の測定	・帯電のしくみについて理解する。 ・電流や電圧とは何かを学習し、オームの法則、抵抗率について理解する。 ・抵抗の直列接続、並列接続における特徴を踏まえ、合成抵抗を理解する。	○			・オームの法則を用いて、電流、電圧、抵抗のそれぞれの量を求めることができる。また、ジュール熱、電力量や電力を計算することができる。	
				○		・導体の温度の高低による電流の流れやすさを考察し、表現できる。	
					○	・ジュール熱について身のまわりの製品と結びつけて理解し、そのしくみを考えようとする。	
11	第2節 電流と磁場 ①磁場 ②モーターと発電機 ③交流と電磁波	・電流がつくる磁場について理解する。 ・モーターが回転するしくみ、発電機で電気が生じるしくみを理解する。 ・直流と交流の違いを知り、交流の性質を踏まえ、変圧器や送電について理解する。	○			・直線電流、円形電流、ソレノイドを流れる電流がそれぞれつくる磁場のようすを理解する。	
				○		・右ねじの法則をもとに、それぞれの電流がつくる磁場のようすを考察し、表現できる。	
					○	・家庭での電気の使用と関連させて、交流の特徴や送電について考察し、意欲的に取り組んでいる。	
	第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーと化石燃料 ②原子力エネルギー	・太陽エネルギーと化石燃料の特徴について学習し、エネルギーの流れや問題点などを理解する。 ・放射線の種類とその性質を学習し、原子力発電についてのメリットとデメリットを理解する。	○			・太陽エネルギーや化石燃料を用いた発電方法について理解する。	
				○		・原子力発電のメリット、デメリットを説明できる。	
					○	・日常生活と深く関わる電気エネルギーが、どのようにつくられているのかに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
	終章 物理学が拓く世界	・物理学が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついて理解する。	○			・身のまわりのさまざまなもの(橋・自動車・ICカードなど)が、物理と密接に関わっていることを理解する。	
				○		・身のまわりのものについて、物理学的にそのしくみなどを考察し、表現できる。	
					○	・さまざまな事物、現象に関心をもち、物理学と結びつけて考えようとする。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	物理	単位数	1単位 (2、3学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	高等学校 物理(第一学習社)		副教材等	セミナー 物理基礎+物理(第一学習社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>中学校理科及び「物理基礎」との関連を図りながら、物理的な事物・現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方はたらかせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付け、それを表現できる。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
12	第1章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動 ①平面運動 ②放物運動	・平面の運動における位置や変位、速度、速度の合成・分解、相対速度、加速度について理解する。 ・水平投射や斜方投射のそれぞれの運動について理解する。	○			・変位や速度、加速度などについての基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。	定期考査 授業態度 課題 レポート
				○		・水平投射や斜方投射された物体の速度を分解し、それぞれの運動の特徴を説明できる。	
					○	・平面運動での位置や変位、速度、加速度などを表すベクトルについて、意欲的に取り組もうとする。	
1	第2節 剛体のつりあい ①剛体にはたらく力のつりあい ②剛体の重心とつりあい 第3節 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量保存の法則	・力のモーメント、剛体のつりあい、剛体にはたらく2力の合成、偶力などを学習し、剛体にはたらく力について理解する。 ・運動量について学習し、運動方程式を用いて、運動量の変化と力積の関係を理解する。 ・物体の衝突や分裂、合体について、運動量保存の法則が成り立つことを理解する。	○			・剛体がつりあうときの力、力のモーメントの関係をそれぞれ確認し、剛体の重心を求めることができる。	
				○		・運動量がベクトルであることを理解し、運動量の変化と力積との関係について説明できる。	
					○	・運動量の意味について、キャッチボールやボウリングなどの身近な例をもとに意欲的に理解し、取り組もうとする。	
2 3	③反発係数 探究1 反発係数の測定 第4節 円運動と単振動 ①円運動 ②慣性力と遠心力	・等速円運動の角速度、周期、回転数、速度を学習し、加速度と向心力を理解する。 ・遠心力を含めた慣性力を学習し、物体にはたらく力を異なる観測者の立場で把握できるようにする。	○			・等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力などの定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。	
				○		・観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明できる。	
					○	・ボールが跳ね返るときのように関心をもち、その現象を物理的に考えようとしている。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	化学基礎	単位数	2単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	啓林館「i版 化学基礎」		副教材等	新課程対応ケミ探+化学基礎(啓林館) セミナー化学基礎+化学(第一学習社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解し、観察、実験などの基本的な技能を身に付けている。	化学的な事物・現象を観察、実験などを通して、科学的に表現することができる。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
4	第1部 物質の構成 第1章 化学と物質 ①物質の構成 ②混合物の分離・精製 ③元素と単体・化合物 ④成分元素の検出 ⑤粒子の熱運動と物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> 混合物と純物質、混合物の分離・精製法を理解する。 元素と化合物・単体、物質の構成元素とその検出方法について理解する。 熱と温度、物質の状態変化について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 混合物と純物質の違い、混合物の分離と精製について理解している。 	定期考査 授業態度 提出物 実験レポート 授業ノート	
					○			<ul style="list-style-type: none"> 物質の性質を利用して身近な物質の成分元素の検出方法を考察し、表現できる。 熱と温度、物質の三態の関係について意欲的に取り組もうとする。
5	第2章 物質の構成粒子 ①原子の構造 ②同位体 ③電子配置 ④イオンの生成 ⑤イオンの生成とエネルギー ⑥元素の周期表	<ul style="list-style-type: none"> 物質は原子、分子、イオンが集まってできていることや、原子の構造を理解する。 イオンの性質について理解する。 周期表の関係について、理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 電子配置と原子の性質の関係について理解している。 		
					○			<ul style="list-style-type: none"> イオンの生成の仕組みを理解し、イオン式と価数について考察し、表現できる。
						○		<ul style="list-style-type: none"> 原子、イオンの大きさと電子配置の関係といった規則性について考察し、意欲的に取り組もうとする。
6	第3章 化学結合 ①イオン結合 ②イオン結晶とその性質 ③共有結合と分子 ④共有結合の表し方 ⑤配位結合	<ul style="list-style-type: none"> イオン結合とイオン結合でできた物質について理解する。 共有結合と分子について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> イオン結合の性質やイオン結合でできた物質、分子式や電子式の表し方や共有結合結晶について理解している。 		
					○			<ul style="list-style-type: none"> イオン結合とイオン結合でできた物質の構成および共有結合と分子の成り立ち、配位結合の成り立ちについて考察し、表現できる。
						○		<ul style="list-style-type: none"> イオン結晶の性質について興味を持ち調べようしたり、共有結合や分子からなる物質の例から、日常生活や社会に生かそうしたりする。
6	⑥電気陰性度と極性 ⑦分子からなる物質と分子間に働く力 ⑧分子からなる物質の代表例 ⑨共有結合結晶 ⑩金属結合と金属	<ul style="list-style-type: none"> 共有結合と電気陰性度を関連付けて、分子の性質について理解する。 金属結合と金属の性質について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 分子や金属結合の性質について理解している。 		
					○			<ul style="list-style-type: none"> 分子の性質や金属結合と金属の性質を、電子と関連付けて考察し、表現できる。
						○		<ul style="list-style-type: none"> 分子や金属結晶の性質について興味を持ち、意欲的に調べようとする。
6	⑪化学結合と物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> 化学結合による物質の分類を、それぞれの物質の性質と関連付けて理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 結合の強さなどの性質と関連付けた物質の分類の仕方を理解している。 		
					○		<ul style="list-style-type: none"> 化学結合による物質の分類を理解し、その性質と関連付けて考察し、表現できる。 	
						○	<ul style="list-style-type: none"> 物質の分類において共通点と相違点について考察し、意欲的に取り組んでいる。 	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7 8	第2部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質と粒子の数 ④物質と質量 ⑤物質と気体の体積 ⑥溶液と濃度	・原子量・分子量・式量について理解する。 ・物質をつくる粒子の量や濃度について物質を用いて表す方法を理解する。	○			・物質と体積、質量の関係をアボガドロ定数と関連付けて理解している。	定期考査 小テスト 提出物 授業ノート 授業態度
				○		・モル質量やモル体積、モル濃度を用いて物質の量や濃度を考察し、表現できる。	
			○	・原子や分子の質量の相対質量による表し方などを考察し、意欲的に調べようとする。			
	○			・化学反応式による化学変化の表し方を理解している。			
⑦化学反応式 ⑧化学変化の量的関係	・化学変化における量的な関係を物質により理解する。		○		・反応する物質の量的関係と反応式の係数比の関係を見だし、表現できる。		
				○	・化学変化がどのような規則に基づいて変化するかを考察し、意欲的に取り組んでいる。		
9	第2章 酸と塩基 ①酸と塩基の定義 ②酸・塩基の価数と強弱	・酸と塩基の性質と電離度について理解する。	○			・酸と水素イオン、塩基と水酸化物イオンとの関係を理解している。	
				○		・酸と塩基の性質を、イオンや価数、電離度などと関連付けて考察し、表現できる。	
			○	・酸と塩基を振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。			
	○			・水溶液の性質と pH の関係性について理解している。			
③水の電離と pH ④水溶液の希釈と pH 測定	・水分子がわずかに電離して水素イオンと水酸化物イオンを生じていることや、pH について理解する。		○		・水の電離と pH を理解し、水溶液の酸性・塩基性の強弱を考察し、表現できる。		
				○	・水の電離や pH に関する知識を、日常生活や社会に生かそうとする。		
10	⑤中和と塩 ⑥塩の性質 ⑦中和反応の量的関係 ⑧中和滴定 ⑨滴定曲線	・酸と塩基の中和の量的関係や中和による塩の生成とその性質を理解する。	○			・中和の原理を理解している。	
				○		・中和滴定の実験結果を表にまとめ、酸の濃度について考察し、表現できる。	
			○	・中和滴定に必要な操作や留意すべき点、使用器具の特徴などについて調べようとする。			
	○			・酸化還元反応の仕組みを理解している。			
第3章 酸化還元反応 ①酸化と還元の定義 ②酸化数 ③酸化剤と還元剤 ④酸化還元反応の反応式 ⑤酸化還元反応の量的関係	・酸化と還元の定義と酸化数について理解する。 ・酸化剤と還元剤とその反応について理解する。		○		・酸化反応と還元反応を、酸化数を用いて考察し、表現できる。		
				○	・酸化還元反応の仕組みの利用例について調べようとしている。		
11	⑥イオン化傾向 ⑦金属の酸化還元反応	・金属のイオン化傾向について理解する。 ・酸化還元反応と金属のイオン化傾向の知識を、電池へと応用することができる。	○			・金属のイオン化傾向による反応性の違いを理解している。	
				○		・金属の反応性の違いをイオン化傾向との関連から考察し、表現できる。	
					○	・金属のイオン化傾向と電池の関係性について興味をもち、意欲的に取り組んでいる。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	化学	単位数	1単位 (2、3学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	東京書籍「化学 Vol.1 理論編」		副教材等	セミナー化学基礎+化学	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、実験に関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。	化学が果たす役割について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	化学が果たす役割について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
11 12	2編 化学反応とエネルギー 1節 電池	<ul style="list-style-type: none"> ・電池の種類とその構造、原理、特徴を理解する。 ・電池における量的関係を、各電極の反応式及び反応を用いて求める。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・電池の種類とその構造、原理、特徴を理解している。 ・電池と物質量の関係について考え、それを表現できる。 ・電池に関する知識を、日常生活や社会に生かそうとする。 	定期考査 小テスト 提出物 授業ノート 授業態度
12	1編 物質の状態 1章 物質の状態 1節 物質の三態 2節 気体・液体間の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> ・固体、液体、気体の3つの状態と、粒子のふるまいを考える。 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りについて理解する。 ・物質の融点、沸点と粒子間に働く引力の関係を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・融解、凝固、蒸発、凝縮を粒子の熱運動と拡散について理解している。 ・物質の融点、沸点を粒子間に働く引力と関連付けて説明できる。 ・固体、液体、気体の3つの状態を確認し、粒子のふるまいについて意欲的に考察し取り組んでいる。 	
1	4章 固体の構造 1節 結晶 2節 金属結晶の構造 3節 イオン結晶の構造 4節 分子結晶と共有結合の結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・単位格子と配位数を理解する。 ・イオン半径と結晶の安定性、共有結合結晶の単位格子、各結晶格子の密度について理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・結晶の代表的な構造から、その配列、配位数、充填率について理解している。 ・イオン半径と結晶の安定性、共有結合結晶について科学的に捉え、説明できる。 ・結晶の種類について、構成粒子からその特徴とともに考え、意欲的に取り組んでいる。 	小テスト 提出物 授業ノート 授業態度
2	2章 気体の性質 1節 気体 2節 気体の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式、ドルトンの分圧の法則を理解する。 ・混合気体の圧力や、捕集気体の分圧の求め方を理解する。 ・理想気体と実在気体の違いについて理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式、ドルトンの分圧の法則について理解している。 ・混合気体や実在気体と理想気体の違いについて、科学的に説明できる。 ・熱気球といった身近な現象から、気体の性質を考察し、取り組んでいる。 	
3	3章 溶液の性質 1節 溶解 2節 希薄溶液の性質 3節 コロイド	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン結晶と極性分子、無極性分子の溶解について溶媒の種類と関連付けて考える。 ・純溶媒と希薄溶液の違いを理解する。 ・コロイド溶液の様々な性質を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・質量モル濃度などの計算方法や、溶解のしくみについて理解している。 ・沸点上昇、凝固点降下、コロイド溶液などの性質の違いについて、グラフを活用しながら説明できる。 ・溶液に関する知識と日常における身近な現象を結び付けようとする。 	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	生物基礎	単位数	2単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	高等学校 生物基礎(数研出版)		副教材等	三訂版リードα生物基礎+生物(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付け、それを表現できる。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
4	序章 生物基礎を学ぶにあたって探究のプロセス 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 生物の多様性、生物の多様性・共通性とその由来、生物の共通性としての細胞	<ul style="list-style-type: none"> 生物基礎で学習する内容の概要を把握する。 生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。 生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解している。 さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。 生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 	定期考査 小テスト 授業態度 課題	
			○	○				<ul style="list-style-type: none"> 生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPの形で供給されていることを理解している。 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。
			○		○			<ul style="list-style-type: none"> 呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解している。 動物や植物のエネルギーの獲得方法を参考にしながら、菌類や細菌がどのようにエネルギーを獲得しているかを調べ、説明できる。 呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。
					○			<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。 DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。 遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。
5	第1章 生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内で必要な化学反応が進行することを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。 DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。 遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 	定期考査 小テスト 授業態度 課題	
6	3. 呼吸と光合成 呼吸、光合成、エネルギーの流れ、酵素			○				
7	第2章 遺伝子とそのはたらき		○					
8	1. 遺伝情報とDNA 遺伝情報を含む物質-DNA、DNAの構造	<ul style="list-style-type: none"> DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。 遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する。 		○		<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。 DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。 遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 	定期考査 小テスト 授業態度 課題	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7 8	第2章 遺伝子とそのはたらき 2. 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の複製、遺伝情報の分配	・DNAが、半保存的に複製されることを理解する。 ・細胞周期の進行に伴って、DNAが正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解する。	○			・細胞周期の進行に伴って、DNAが複製され、分配されることを理解している。	定期考査 小テスト 授業態度 課題
				○		・複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。	
	第2章 遺伝子とそのはたらき 3. 遺伝情報の発現 遺伝情報とタンパク質、タンパク質の合成、分化した細胞の遺伝子発現、遺伝情報と遺伝子、ゲノム	・タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。 ・個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	○			・特定の条件で細胞周期の各期の長さを推定できることに興味を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	
				○		・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解している。 ・DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだすことができる。 ・遺伝情報の発現に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	
9 10	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 体内での情報伝達、神経系による情報の伝達と調節、内分泌系による情報の伝達と調節	・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。	○			・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解している。 ・チロキシンを例に、フィードバックがはたらかなくなった場合、どのようなことが起こるかを考え、説明できる。	定期考査 小テスト 授業態度 課題
				○		・体内での情報伝達と調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	
	第3章 ヒトの体内環境の維持 2. 体内環境の維持のしくみ 体内環境の維持、血糖濃度の調節のしくみ、血液の循環を維持するしくみ	・ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。	○			・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解している。 ・食事の前後での血糖濃度とインスリン濃度の変化のグラフから、血糖濃度とインスリンのはたらきとの関係に気づき、説明できる。	
				○		・体内環境の維持のしくみに興味を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	
10 11	第3章 ヒトの体内環境の維持 3. 免疫のはたらき からだを守るしくみ-免疫、自然免疫、適応免疫、免疫と病気	・からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。 ・免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。	○			・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解している。	
				○		・抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考察し、説明できる。	
					○	・免疫のはたらきに関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	
11	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 植生、植生の遷移	・植生の成りたちや相観について理解する。 ・植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。	○			・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。	定期考査 小テスト 授業態度 課題
				○		・遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。	
					○	・植生と遷移に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	
	第4章 生物の多様性と生態系 2. 植生の分布とバイオーム バイオームの成立、世界のバイオーム、日本のバイオーム	・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 ・気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。	○			・さまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。	
				○		・地球の気温が上昇するとバイオームの垂直分布がどのように変化するかを推測し、説明できる。	
					○	・植生の分布とバイオームに関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	
	第4章 生物の多様性と生態系 3. 生態系と生物の多様性 生態系の成りたち、生態系と種多様性、生物どうしのつながり 4. 生態系のバランスと保全 生態系のバランス、人間の活動と生態系、生態系の保全	・生態系の成りたちを理解する。 ・生態系がもつ復元力について理解する。 ・生態系の保全の重要性について理解する。	○			・生態系がどのように構成されているかを理解している。	
				○		・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。	
					○	・生態系と生物の多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	生物	単位数	1単位 (2、3学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	生物(数研出版)		副教材等	三訂版リードα生物基礎+生物(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付け、それを表現できる。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
12	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 生物の多様性と共通性、原始地球と有機物の生成、有機物から生物へ、生物の出現とその発展、真核生物の出現と進化	<ul style="list-style-type: none"> 生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。 生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化したことを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 細胞の進化によって地球環境が変化したり、地球環境の変化が進化に影響したりしてきたことを理解している。 学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。 生命の起源と生物の進化に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 	定期考査 小テスト 授業態度 課題
				○			
					○		
1	第1章 生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性 遺伝子と形質、ゲノムの多様性 3. 遺伝子の組み合わせの変化、減数分裂と受精、染色体と遺伝子、遺伝子の組み合わせの変化	<ul style="list-style-type: none"> 生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。 有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解している。 遺伝子が変わると、遺伝子をもとにつくられるタンパク質が変化し、その結果形質が変化することを見いだすことができる。 遺伝子の組み合わせの変化に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 	
				○			
					○		
2	第1章 生物の進化 4. 進化のしくみ 進化と突然変異、集団としての進化、実際の生物集団と進化、種分化	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。 隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度が変化することを理解している。 異なる種の親から子が生まれることはあるが、その子からは子が生まれない理由を考え、説明することができる。 進化のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 	定期考査 小テスト 授業態度 課題
				○			
					○		
3	第1章 生物の進化 5. 生物の系統と進化 生物の分類、生物の系統と系統樹、生物の系統と分類 6. 人類の系統と進化 人類の祖先、人類の進化	<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。 生物が、系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。 人類が、霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ドメイン、界、門などの分類群について理解している。 生物が、系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解し、説明することができる。 人類の系統と進化に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 	
				○			
					○		

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	体育	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	なし			副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	体づくり運動	・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・自己のねらいに応じて効果的な成果を得るための適切な運動の行い方を理解できる。 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 	授業態度 学習カード
	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できる。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えること。 ・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。 	
5	器械運動	<ul style="list-style-type: none"> ・(器械運動)技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動の観察、体力の高め方を理解する。 ・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。 ・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・(器械運動)回転系の接転技群、ほん転技群の基本的な技、巧技系の平均立ち技群の基本的な動きを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ・(陸上競技)技術と関連させた運動や練習を繰り返したり継続して行ったりすることで結果として体力を高めることができることを理解できる。 ・(ダンス)イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表を理解できる。 ・(器械運動)自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。 	
6	陸上競技(競走・跳躍・投擲)				○		
7	ダンスから選択					○	
8							

		様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。				<ul style="list-style-type: none"> ・(陸上競技) 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。 ・(ダンス) 作品の創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> ・(器械運動・陸上競技・ダンス) 自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。 	
9	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの技術と技能及び変化について理解できる。 ・運動の概念と自己の状況を関連付けたりして自己や社会についての課題を発見し他者に伝えることができる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。 	
9 10 11 12	球技・武道から選択 球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	<ul style="list-style-type: none"> ・(球技) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・(武道) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・(球技) 型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。 ・(武道) 伝統的な考え方は「道」を追究する大切な仲間であることを理解できる。 ・(球技) チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。 ・(武道) 練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。 ・(球技) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。 ・(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。 	授業態度 学習カード
10 11	陸上競技(長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争を通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等に関わらず「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わう。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じてストライドやピッチを切り替えて走ることができる。 ・自己や仲間の動きを分析して良い点や修正点を指摘することができる。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることができる。 	
2	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツを行う際は気象条件の変化など様々な危険を予見し回避することについて理解できる。 ・運動やスポーツの活動時の健康、安全の確保の仕方について習得した知識を基に環境の異なる場所や変化を想定して危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えることができる。 ・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。 	授業態度 学習カード
2 3	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画たて、取り組む。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・体力の構成要素は健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることを理解することができる。 ・学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に応用することができる。 ・一人一人の違いを大切に、健康・安全を確保することができる。 	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	保健	単位数	1単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	生涯を通じる健康について、思春期、結婚生活、加齢の段階において、健康、行動、生活などに課題や特徴があること、また、労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題について理解する。 人間の生活や産業活動が自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことを理解し、改善の対策を考える。
---------	---

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。	生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	3 単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・思春期における体の変化を女性と男性に分けて説明できる。	○			・生涯の各段階と健康の関わりについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康に関わる原則や概念を基に整理したり個人及び社会生活と関連付け他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		
5	3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶	・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・妊娠、出産の過程における健康課題について説明できる。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	○			・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期と健康について習得した知識をもとに心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために性に関わる情報を適切に整理している。 ・妊娠、出産と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
6	6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康 8 働くことと健康	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・加齢に伴う心身の変化について説明できる。 ・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。	○			・加齢に伴い心身の機能や形態が変化することについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取り組みと社会的な対策を整理している。 ・働くことと健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		
7 8	9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	・労働災害の種類とその原因について説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	○			・労働災害を防止する対策が必要であることについて、言ったり書いたりしている。 ・労働災害の防止に向けて個人の取り組みと社会的な取り組みについて整理している。 ・健康的な職業生活について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁、土壌汚染と健康	・大気汚染の原因と健康への影響について説明できる。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。	○			・人間の生活や産業活動は大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし健康に影響を及ぼしたり被害をもたらすことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康に関わる原則や概念を基に整理し、自他や社会の課題を発見している。 ・健康を支える環境づくりについて課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
10	3 環境と健康にかかわる対策 4 ゴみの処理と上下水道の整備	・産業廃棄物の処理について説明できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。	○			・汚染物質の排出をできるだけ制御したり排出された汚染物質を適切に処理する必要性を理解し言ったり書いたりしている。 ・産業活動によって引き起こされる自然環境汚染について自他や社会の課題を発見している。 ・環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
11	5 食品の安全性 6 食品生活にかかわる活動 7 健康サービスとその活用	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・保健行政の役割について説明できる。	○			・健康を保持増進するには、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
12 1	8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用	・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて説明できる。	○			・疾病からの回復や悪化の防止には個々の医薬品の特性について理解したことを言ったり書いたりしている。 ・医薬品の制度とその活用について医薬品には承認制度があり販売に規制が設けられていること関連付けながら生活の質の向上のため、自他や社会の課題を発見している。 ・医療サービスについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
2 3	10さまざまな保健活動や社会的対策 11健康に関する環境づくりと社会参加	・国際機関、民間機関などの保健活動について説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	○			・健康を支えるために健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策について理解したことを言ったり書いたりしている。 ・地域の保健、医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、自他や社会の課題を発見している。 ・保健活動について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication Ⅱ (数研出版)		副教材等	BLUE MARBLE English CommunicationⅡナビゲーションノート (数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	■Lesson 1 Leadership in Modern Times	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。(以下同) ・現代社会において求められるリーダーシップについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		本文の内容について、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
5	■Lesson 2 The Diversity of Traditional Houses	・[Lesson1~共通] ・世界の伝統的な住居について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
6	■Lesson 3 Improving Society with Avatar Robots	・[Lesson1~共通] ・分身ロボットについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、自分の意見を話したり、書くことができる。"	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
7 8	■Lesson 4 Approaches to Food Waste	・[Lesson1~共通] ・食品ロスについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	■Lesson 5 Animals as Indispensable Partners	・[Lesson1~共通] ・人間の暮らしと社会をサポートする動物について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
10	■Lesson 6 An Irish Poet on a Mission	・[Lesson1~共通] ・マクミランの使命と日本文化への貢献について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
11	■Lesson 7 Be Free from Gender Bias	・[Lesson1~共通] ・社会にひそむジェンダーバイアスについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	小テスト パフォーマンス テスト
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
12	■Lesson 8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees	・[Lesson1~共通] ・緒方貞子氏が行った難民保護と彼女の信念について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
1 ・ 2	■Lesson 9 Tackling Global Warming	・[Lesson1~共通] ・地球温暖化への取り組みについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
2 ・ 3	■Lesson 10 Keys to Finding Happiness	・[Lesson1~共通] ・幸福度を高めるコツについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	小テスト パフォーマンス テスト
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース
使用教科書	be English Logic and Expression II Clear(いづな書店)		副教材等	be Clear Grammar Book II (いづな書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	各単元の文法項目を正しく用いて表現することができ、時事問題や現代社会が抱える問題などの題材について自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする意欲的なコミュニケーションを取る姿勢を身に付ける。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
文法事項の意味や働きについて理解し、書く・話す／伝え合う技能を身につけている。	各単元の題材について、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。	各単元の題材について、筋道立てて伝え合おうとする。また、発話を振り返り、改善点を見出している。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	■Introduction 「論理的に考える」ためのウォーミングアップ ■Your Interests 興味のあることについて話す	【言語材料】 ・自動詞/他動詞 ・動詞の形 ・句と節 ・時制 【言語の働き】 ・情報をたずねる	○			時制の意味や働きについて理解している。(●) 時制などを適切に用いて、伝え合う技能を身につけている。(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		クラブ活動や自分の趣味について、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。(◆)	
					○	クラブ活動や自分の趣味について、筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。(■)	
5	■Your Daily Life 日常生活を紹介する ■Your School Life 学校生活について話す	【言語材料】 ・名詞句/名詞節 ・助動詞 【言語の働き】 ・交渉する ・手順を説明する	○			名施設や助動詞(●) 名施設や助動詞など(◎)	
				○		いま流行していることや学校生活について、(◆)	
					○	いま流行していることや学校生活について、(■)	
6	■Script Writing スピーチやプレゼンテーションに向けて、自分が話す原稿を考える ■Media Literacy メディアリテラシー	【言語材料】 ・形容詞 ・分詞 【言語の働き】 ・例を挙げる ・相手の意見を聞く	○			形容詞や分詞(●) 形容詞や分詞など(◎)	
				○		最近目にしたことについて、(◆)	
					○	最近目にしたことについて、(■)	
7	■Helping Others ボランティア活動 ■Introducing Your Town 地域活性レポート	【言語材料】 ・形容詞句 【言語の働き】 ・提案する	○			形容詞句や関係代名詞/副詞(●) 形容詞句や関係代名詞/副詞など(◎)	
				○		ボランティアの経験や町の魅力について、(◆)	
					○	ボランティアの経験や町の魅力について、(■)	
8	■Speech Activity ここまで習ったトピックを派生させてスピーチをしてみよう	【言語の働き】 ・聞き手に伝わりやすい表現を考える ・聞き手に聞こえやすい話し方を工夫する	○			一学期に学習した文法事項(●) 一学期に学習した文法事項(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		自分の現在関心があることや地域について、(◆)	
					○	自分の現在関心があることや地域について、(■)	
9	■Language of the World& Discussion 世界の言語	【言語材料】 ・副詞/副詞句 【言語の働き】 ・同意する/しないの意思表示をする ・確認する	○			副詞(●) 副詞など(◎)	
				○		言語の消滅について、(◆)	
					○	言語の消滅について、(■)	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	■Imagining the Future 想像力を働かせる ■Happiness and Stress 新しい幸福の形とストレス	【言語材料】 ・副詞句/節 【言語の働き】 ・あいづち ・グラフや図に注目させる	○			副詞句/節(●) 副詞句/節など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		与えられたストーリーの続きおよび自分の幸せについて、(◆)	
					○	与えられたストーリーの続きおよび自分の幸せについて、(■)	
11	■Comparing Countries 世界のデータを比較する ■Giving Presentation	【言語材料】 ・比較表現 【言語の働き】 ・グラフや図に注目させる	○			比較表現(●) 比較表現など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		データから読み取れることについて、(◆)	
					○	データから読み取れることについて、(■)	
12	■Cultural Diversity 文化の多様性 ■Japanese Customs 日本の文化	【言語材料】 ・仮定法 ・接続詞/話法 【言語の働き】 ・理由をたずねる ・感謝を伝える	○			仮定法や that 節/話法(●) 仮定法や that 節/話法など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		途上国の支援やアンケート結果の分析について、(◆)	
					○	途上国の支援やアンケート結果の分析について、(■)	
1	■Population Issues 人口問題 ■Debate 時事問題の解決策や現在施されている対策についてディベートをする	【言語材料】 ・「ある」「いる」「かかる」 【言語の働き】 ・共感する	○			存在や変化を表す表現(●) 存在や変化を表す表現など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		少子化対策について、(◆)	
					○	少子化対策について、(■)	
2	■Rights and Equality 人権と平等 ■ Think Globally、 Act Locally 平和な世界を築くために	【言語材料】 ・使役動詞 ・知覚動詞 ・無生物主語 【言語の働き】 ・反論する前にクッションを置く ・話を切り出す	○			使役動詞/知覚動詞や無生物主語(●) 使役動詞/知覚動詞や無生物主語など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		ジェンダーや人権問題および SDGs について、(◆)	
					○	ジェンダーや人権問題および SDGs について、(■)	
3	■Show and Tell (Presentation) 時事問題の現状や、現時点での取り組みについての意見、新たな提言などについて視覚的な見易さも考慮した上でプレゼンテーションを行う	【言語材料】 一年次の文法事項 【言語の働き】 ・伝わりやすさを考慮して伝える ・共感や疑問などを含むコメントや質問をする	○			二年次に学習した文法事項(●) 二年次に学習した文法事項(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		時事問題やそれに対する現時点での取り組みについて、(◆)	
					○	時事問題やそれに対する現時点での取り組みについて、(■)	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	情報 I	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	最新情報 I 新訂版 (実教出版)		副教材等	最新情報 I 学習ノート(実教出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1章 情報社会と問題解決 第1節 情報と情報社会 ① 情報と社会の発展 ② 情報技術が築く新しい社会 ③ 情報の特性 ④ 情報のモラルと個人に及ぼす影響	・情報やデータ、知識の創出について学ぶ。 ・社会の発展と基盤技術、新しい情報社会について理解する。 ・人工知能(AI)など新しい情報技術について理解し、どのような社会的課題を解決できるか考える。	○			・データ、情報、知識の意味と相互の関係について説明することができる。	定期検査 授業態度 課題
				○		・新しい情報技術によって、どのような社会的課題が解決できるか、事例をあげることができる。 ・情報や情報技術が社会に果たす役割やこれからの情報社会についてインターネットなどで調べようとしている。	
5	第2節 知的財産と個人情報 ① 知的財産 ② 情報の利用と公開 ③ 個人情報の保護と管理 ④ サイバー犯罪とその対策 第3節 問題解決 ① 問題解決の手順と発見 ② 問題の明確化と解決案 ③ 問題解決の実施と評価	・知的財産権について理解する。 ・サイバー犯罪とは何か、どのように対策すればよいかを理解する。 ・問題解決の実施と評価の方法について理解する。	○			・知的財産権の概要について説明することができる。	
				○		・認証の種類や方法について理解し、適切なパスワードを作成することができる。 ・試行錯誤しながら、粘り強く問題の発見・解決に取り組んでいる。	
6	第4章 アルゴリズムとプログラミング 第1節 アルゴリズムとプログラミング ① アルゴリズムとその表記 ② プログラミング言語	・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・プログラミングの手順とプログラミング言語の種類とその特徴について理解する。	○			・プログラミングの手順(設計→コーディング→テスト)を理解している。	
				○		・簡単なアルゴリズムを、フローチャートで表現できる。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に、主体的に取り組んでいる	
7	第3節 プログラミングの実践 ① プログラミングの基礎 ② 関数を使用したプログラム ③ 探索と整列のプログラム	・変数を使用したプログラムを作成する。 ・関数を使用したプログラムを作成する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出し、数値を並べ替えたりするプログラムを作成する。	○			・VBAの実行環境を設定し、簡単なプログラムを作成して実行することができる。	
				○		・関数を活用したプログラムを設計し、わかりやすく効率的なプログラムを作成できる。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考え、粘り強く試行錯誤しながらプログラムを作成することができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第2章 コミュニケーションと情報デザイン 第1節 メディアとコミュニケーション ① メディアの機能 ② メディアの特性 ③ コミュニケーションの形態 ④ インターネット上のコミュニケーション	・メディアの機能や分類について理解し、メディアの発達について知る。 ・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。	○			・メディアの機能について説明することができる。	定期考査 授業態度 課題
				○		・コミュニケーションの方法を発信者と受信者の人数、位置関係、同期性によって分類することができる。 ・自らのメディア活用について振り返り、より効果的な表現や情報伝達ができるように改善しようとしている。	
9	第2節 情報デザイン ① 社会の中の情報デザイン ② 情報デザインの工夫 第3節 情報デザインの実践 ① 文書の作成 ② プレゼンテーションの工夫 ③ Web ページ	・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 ・情報を分類したり、わかりやすく表現したりする方法について理解する。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。	○			・情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味と目的について説明することができる。 ・必要に応じて、情報を抽象化、可視化、構造化して表現することができる。	
				○		・わかりやすい報告書やレポートを作成するため、文書の構成やレイアウトについて自ら進んで工夫し、評価に基づいて改善しようとしている。	
10	第3章 情報のデジタル化とコンピュータ 第1節 情報のデジタル表現 ① デジタルと情報量 ② 数値と文字の表現 ③ 音の表現 ④ 静止画と動画の表現 ⑤ データ量とデータの圧縮	・アナログとデジタルの違い、2進数と情報量の関係について理解する。 ・音声をデジタルで表現する方法について理解する。 ・静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。	○			・アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。	
				○		・音声の情報を目的に応じて適切にデジタルで表現できる。 ・数値・文字・音声・画像などのデジタル化の仕組みに関心を示し、これらのデジタル化された情報を主体的かつ適切に取り扱おうとしている。	
11	第2節 コンピュータの仕組みと動作 ① ハードウェアとソフトウェア ② 数値の計算 ③ 演算の仕組み	・コンピュータの構成や動作、情報機器の接続、ソフトウェアの種類について理解する。 ・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。 ・コンピュータの演算の仕組みを理解する。	○			・コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。	
				○		・10進数の小数を浮動小数点数で表すことができるようになる。 ・加算回路など、コンピュータによる演算や数値計算の仕組みについて関心を示している。	
12	第5章 情報通信ネットワークとセキュリティ 第1節 情報通信ネットワーク ① ネットワークの構成 ② 情報通信の取り決め ③ インターネットの仕組み ④ web ページとメールの仕組み ⑤ 転送速度と誤り検出	・情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。	○			・通信方式の種類やその違いについて説明することができる。 ・インターネットにおける情報伝達の仕組みについて、教科書の図で説明することができる。	
				○		・インターネットの仕組みやサービスに興味・関心をもち、転送速度の向上や誤り検出の方法などについて、個人あるいはグループで検討しようとしている。	
1	第2節 情報セキュリティ ① 情報セキュリティの脅威と対策 ② 安全のための情報技術 第3節 情報システム ① 情報の中の情報システム ② 情報システムの活用 ③ データベース	・情報セキュリティの脅威に対するさまざまな安全対策について理解する。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。 ・身のまわりの情報システムについて理解する。	○			・おこな情報セキュリティへの脅威(リスク)と、その対策について理解している。	定期考査 授業態度 課題
				○		・デジタル署名や電子認証などの情報技術は、どのような問題を解決するための技術か、具体的に事例をあげて説明することができる。 ・これからの社会における情報システムの活用について、関心を示して調べてみようとしている。	
2	第6章 データの活用とシミュレーション 第1節 データの活用 ① データの収集と整理 ② データの分析と表計算 ③ データの可視化 ④ データ分析の手法	・データを収集したり整理したりする方法について理解する。 ・データを適切なグラフや図に表現する。 ・データ分析の手法について理解する。	○			・オープンデータの利用や標本調査の方法について理解している。	
				○		・問題解決の目的に応じてグラフの種類を選択し、データを適切に可視化することができる。 ・問題解決のためのデータ分析を、試行錯誤しながら粘り強く行うことができる。	
3	第2節 モデル化とシミュレーション ① モデルとモデル化 ② シミュレーション 第3節 シミュレーションの実際 ① 確定的モデルとシミュレーション ② 確率的モデルとシミュレーション ③ モデル化とシミュレーションによる問題解決	・モデル化の意味、分類、モデル化の手順について理解する。 ・シミュレーションの手順と方法について理解する。 ・確率的モデルのシミュレーションを行う。	○			・モデル化およびシミュレーションの意味について説明することができる。	
				○		・コンピュータを活用して、現実の問題解決のために行うシミュレーションの活用事例をあげることができる。 ・モンテカルロ法による円周率の算出について、表計算ソフトウェアを用いたシミュレーションだけでなく、プログラミングでシミュレーションする方法にも取り組もうとしている。	